

# Weekly Michael's News

＜今週の聖句＞

2017年11月6日発行 No.53

『あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』（新約聖書 マタイによる福音書 23:11～12）

＜亡くなった学院関係者 104 名一人ひとりを覚えて…。逝去者記念礼拝を挙行!!＞

10月下旬～11月は、命を覚える機会が多く持たれるキリスト教会。八代学院でも、垂水の記念チャペルを会場に、これまで学院運営に関わってこられた全ての方々を覚えて逝去者記念礼拝が行われました!! このような繋がりを覚える温かさこそ、KIUの魅力の源泉であるように思います。



学院の歴史を漂わせる記念チャペル

昨年の倍以上の参加者が集った礼拝

学院の歩みを伝える吉田先生の奨励

＜懐かしい面々と共に見えない絆を確認!! 大学祭と同時に同窓会創立45周年記念礼拝を挙行!!＞

昨日は大学祭で大いに盛り上がったKIUキャンパス。同時にチャペルでも同窓会の45周年記念礼拝が執り行われ、参加された方の中にある絆・つながりを再確認する機会となりました!! 来年50周年を迎えるKIU、そこでも大きな花火を打ち上げていきたいですね!!



快晴、学祭日和のKIUキャンパス!!

コクサイ君も大人気!?

学生主催の各ブースも大盛り上がり!!



同窓会記念礼拝!! 満員御礼!!

懐かしい映像に笑顔がこぼれる

祝賀会では懐かしい再会の場面が



## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

10月30日(月) テーマ:「偶然と奇跡について」

中越 竜馬(リハビリテーション学部)

皆さんは「偶然」と「奇跡」という言葉をどのように使い分けているだろうか? 辞書を引くと「偶然」は「何の因果関係もなく予期せぬ事が起こること」で「奇跡」は「常識では起こりえない出来事が起こること」とある。また「奇跡」は「起こす」と言うが、「偶然」は「起こす」とは言わない。スポーツの世界等でも「奇跡」のような結果を起こすためには、それ相応の「準備」が求められる。また歴史の物語等でも、偶然の出会いから道が拓かれた武将が多く存在する。しかし、そこにも語られていない密かな準備があったのではないかと想像する。翻って私たちはどうだろうか? 私たちの周りの「偶然の出会い」も実は努力の積み重ねかもしれない。出会いと準備を大切にしよう。

10月31日(火)

この日は音楽礼拝で、オルガニストの伊藤純子先生演奏に耳と心を傾けました。

現在、聖歌隊ではクリスマス礼拝に向けて協力してくれる人を大募集中です!! 歌が好きな人、今年のクリスマスに何か新しいことを始めてみたいと考えている人、初心者でも構いません!! 関心のある方はキリスト教センターまでご一報下さい!!



11月1日(水) テーマ:「祈りについて」

八代 智(学院長)

この礼拝堂に宗教の有無を問わずたくさんの学生が集まってくれている。「礼拝」と「祈り」はどう違うのだろうか? 「祈り」は、一人で心の中で行うもの、そして「礼拝」は2人以上で行うものであると言える。「祈り」とは、宗教の枠を超えて、私たちの生活の中に普通に存在している。例えば「いただきます」は食前の感謝、また「ごちそうさま」は与えられた命に対する想いが表れた祈りである。身の周りの出来事に対して、感謝を持って積極的に見るか、愚痴を言いながら消極的に見るかで、その積み重ねで人生は大きく変わってくる。小さな事にも喜びを見出しながら共に歩みたい。

11月2日(木) テーマ:「悪人の祈りについて」

遠藤 雅己(経済学部)

日本では「合格祈願」や「学業達成」など、「祈り」=「願い」という側面が強いように感じるが、そのような直線的なものでいいのだろうか? 自分の中で宗教的な感情が芽生えたのはいつかと想起すると、妹や母の死に直面した時、特にその恐怖を強く感じた時であった。誰にでも寿命があり、自分も含めて誰でもいつかは死ぬ。この「死」を実感した時、驚くほど自然に「明日も朝目覚めますように…」と祈る自分がいた。「何かを成したから、信仰深いから救ってくれ」という自力本願な祈りも違うと思うし、かといって善人になれない自分の狭間で悩んだ時、出会ったのが「歎異抄」に出てくる言葉だ。その善悪に限らず一つひとつの命に注がれる愛の視線を覚えつつ歩みたい。

11月3日(金) テーマ:「ゴミはゴミ箱に」

野間 光顕(チャブレン)

先月の終わり、東京の渋谷がハロウィーンで盛り上がった様子がニュースで報じられていた。活況である一方、その騒ぎから生み出されるゴミの問題が気になった。確かにあれだけの人が集まれば、ゴミも出るだろう。経済効果がすごいんだからゴミぐらい…という意見もあろう。しかし「自分ひとりぐらい…」という感覚が、社会の歪みを更に大きくしているようにも思う。今朝は、学生会の主催するクリーンアップに参加した。学生と談笑しながら、また挨拶をしながらゴミを拾うと、道路や歩道橋だけでなく、自分の心の中も綺麗になったように感じた。一人ひとりが持つ力は実に小さいが、私たちの集う社会は、その小さい力の積み重ねで成り立っている事を覚えたい。(文責:野間 光顕)